



韓国テジョンで開催された アジア獣医師会連合 (FAVA) 総会及び大会について

アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会が 10 月 25 日から 27 日にかけて韓国のテジョン市で開催されました。藏内会長はこの FAVA の会長を 2 年間務めていましたが、この大会に先駆けて 10 月 23 日に開催された FAVA 総会でその任期を満了し、そのバトンは大韓獣医師会のホ・ジュヒョン会長に引き継がれました。

ホ会長からは藏内会長が築いてきたワンヘルスについての取組を継承するという所信表明がなされ、アジア各国 (日本を除く) で現在も猛威を振るい続けている狂犬病対策に特に力を入れていく考えです。狂犬病では今も全世界で毎年約 5 万 9 千人が犠牲になっており、かつ、そのうちの 95% はアフリカとアジアで、アジア地域での犠牲者は年間 3 万 5 千人を超えるとされています (WOAH 及び WHO ウェブサイトより)。

藏内会長は FAVA 会長としてのこの 2 年の間に FAVA ワンヘルスオフィス福岡市に立ち上げ、また、アジア大洋州獣医師会連合 (CMAAO) との間でのワンヘルスに係る協定を締結するなど、ワンヘルスをアジア地域で浸透させることに尽力してきました。

都道府県・政令市レベル、国家レベル、地域 (アジア) レベル、そして世界レベルとすべての階層でワンヘルスに関する協定が獣医師と医師の間で結ばれているのは世界でも日本だけのことであり、藏内会長は現在も FAVA のメンバー国に対して、それぞれが国内の医師会とワンヘルスについての協定を締結するよう働きかけています。

こうした藏内会長の取組は 2023 年に世界獣医師会会長ワンヘルス特別賞を受賞するなどです。高い評価を受けていますが、福岡県を世界一の

ワンヘルス推進地域に引き上げた実績を持つ藏内会長が FAVA を牽引してきたことの真の意義は 10 年後くらいには必ず明らかになってくるものと思われまます。

ところで、「そもそもワンヘルスって何だ?」と言う方もいるかもしれません。ワンヘルスは地球環境が大きく変化する中、これまでの獣医学、医学、環境科学といった人間が作り上げてきた学問領域の垣根を取り払って、統合的な視点で地球と向き合おうとする取組のことです。これにより迅速かつ効率的な対策を講じたり、より長期的な視点で現在の問題に取組んだりすることを目指しています。国際獣疫事務局 (WOAH)、WHO、FAO 及び国連環境計画 (UNEP) の 4 者による「ワンヘルスハイレベル専門家会合」では次のように定義しています (訳は筆者)。

ワンヘルス (One Health) は統合的かつ統一的な取組 (アプローチ) であり、人間、動物、生態系の健康の持続可能なバランスを見出そうとするものです。

ワンヘルスは人間、野生を含む動物、植物、そして広範な環境 (生態系を含む) の健康が密接に関連し、相互に依存しているという認識に基づく取組です。

ワンヘルスは社会のさまざまなレベルの複数のセクター、学問分野、地域社会とともに、幸福と健康を促進し、健康や生態系に対する脅威に取り組むことを目的とします。また、清潔な水、エネルギー、新鮮な空気、安全で栄養価の高い食料といった共通の基盤を確保し、気候変動への行動を促し、持続可能な発展に貢献します。

動物に由来する感染症が人の暮らしに多大な影響を与えた COVID-19 の大流行とその対策の紆余曲折で自身が経験してきたことを思い起こしていただければ、その必要性を理解・納得いただけるのではないのでしょうか。感染症に限らず、抗生物質に対する耐性菌の問題やマイクロプラスチックなどによる海洋汚染、地球温暖化、最近よく目にするようになった熊による鳥獣害の問題など、われわれを取り巻く多くの問題により良く取り組むための鍵がワンヘルスです。

話を FAVA に戻しましょう。FAVA はアジア地域の獣医師による 26 団体が加盟する組織で、獣医学教育やワンヘルス、AMR 対策など、専門家としての立場から積極的な地域への貢献に取り組んでいます。バンコクにメインのオフィス（事務局）が、そして福岡にワンヘルスのオフィスがあり、協力しながら地域の問題解決に取り組んでいます。創設者であるチュラロンコン大学のアチャリア教授やインドネシアボゴール農科大学教授のバンバン事務局長をはじめ、ほとんどの関係者が手弁当で協力している真面目な団体なのですが、今回の韓国大会には世界 30 カ国から約 3,800 人が参加するなど、その影響力は年々大きくなっています。

今回は高病原性鳥インフルエンザや耐性菌の問題、小動物臨床など多岐に渡る講演やセミナーなどの他、アジア獣医系大学協会による獣医学教育

についての会合（VetEd Asia 2024）も開催され、アジア地域の獣医学教育についての情報交換が行われました。日本からも 4 名の獣医学部生が招待されており、若い世代に経験を引き継ぐとともにそれぞれの地域のより良い将来が作り上げられていく様子を目の当たりにすることができました。

大会は 2 年ごとに開催されており、次回は 2026 年にフィリピンのセブ島で開催予定です。また、次々回は 2028 年に UAE のアブダビで開催されることが今回の代表者会議で決定しました。地域の獣医師が一堂に会することで団結し、アジア地域の各国が共通して抱える問題の現状を知ることや、それに根差した最新の知見が得られる貴重な機会であることはもちろんですが、これらの開催地では地域の特徴も色濃く反映された興味深い大会になると思われます。

藏内会長の FAVA 会長としての任期は満了となりましたが、引き続き、新設された顧問として FAVA の活動に貢献していくこととなります。皆様ご案内のとおり、藏内会長は現在、世界獣医師会の次期会長となっており、2026 年 4 月から正式に世界獣医師会の会長を務めることとなります。このことはきっと世界やアジア、そして日本の獣医学にとってのより健全な発展に貢献し、日本の獣医師の地位向上にも繋がっていくことでしょう。